

令和4年度士別市総合教育会議（第1回） 会議録

- 1 日 時 令和4年12月12日（月） 午後2時00分～2時55分
- 2 場 所 士別市役所2階 庁議・来賓室
- 3 出席者 **【構成員】** 渡辺市長、中峰教育長、馬場教育長職務代理者、加藤教育委員、
多田教育委員
【事務局】 ・教育委員会 三上生涯学習部長、須藤学校教育課長、坂本合
宿の里・スポーツ推進課長、武山社会教育課長
・総務部 半澤総務課長
- 4 報 道 1名（道北日報社）
- 5 次 第
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 協議事項
 - （1）本年度の教育行政施策等の執行状況と当面の課題
 - （2）令和5年度の教育関係施策と予算
 - （3）今後の教育行政のあり方
 - 4 その他
 - 5 閉会

1 開会

●三上生涯学習部長

はじめに、渡辺市長からご挨拶いただき、その後、議長として進行願う。

2 あいさつ

●渡辺市長

あいさつ要旨

先ほど開催された教育委員会会議に引き続き、総合教育会議もよろしく願います。

市内における新型コロナウイルスの感染者は高止まりの状況にあり、学校などにおいても消毒や換気を励行するなどして感染拡大防止のため努力していただいている。

本日は、教育行政の執行状況や課題、令和5年度の予算、今後の教育行政のあり方などについて意見交換を行いたい。

3 協議事項

●渡辺市長

(1)「本年度の教育行政施策等の執行状況と当面の課題」について、説明を願う。

●三上部長

教育委員会として、本年度の教育行政執行方針に基づき施策・事業の推進に努めてきた。新型コロナウイルスについては依然として全国的な拡がりを見せており、残念ながらこの地域でも感染者が引続き発生している状況である。学校では基本的な感染対策に加え、状況に応じて合唱や体育など感染リスクの高い活動を縮小したほか、感染により登校できない場合などには、ICT端末を活用したオンライン授業を実施するなど、子どもたちの学びを止めないよう取り組んだ。

学校教育、社会教育、社会体育の執行状況と課題の詳細については各課長から説明する。
(別紙資料を基に各課長から説明)

●渡辺市長

質問やご意見があれば発言願う。

●渡辺市長

次に、(2)「令和5年度の教育関係施策と予算」について、説明を願う。

●三上部長

お配りしている資料については、現段階の要求額であり、詳細が明記できないものもあることをご了解いただきたい。主な事業について、各課長から説明する。

●須藤課長

「奨学資金貸付事業費」については、1ヵ月あたりの貸付可能額を5,000円引き上げるとともに、大学院生についても対象とする予定である。「小学校整備事業費」の要求額が大きくなっているが、市の総合計画において改修を予定していた事業のほか、早急に修繕が必要となった事業も含め要求しているところである。「学校事務職員補充事業」については、新年度から事務職員が配置されない見込みの学校に市費によって事務職員を配置するものであり、新規の事業となる。なお、これまでの協議の中で、事業名が不相当との見解もあったため、今後変更する可能性もある。

●武山課長

コロナ禍によって、子どもたちもストレスを感じており、そのはけ口が良からぬ方に向かわないか心配である。また、自分と違うものを拒絶することないよう指導が必要と感じる。いじめ、LGBTやアイヌ民族などを含め、差別をなくす教育や人権教育がより大事になってきている。

●坂本課長

「スポーツイベント開催事業費」について、来年開催するインターハイのウエイトリフティング競技に関する予算などを要求している。

●渡辺市長

三上部長からも説明があったとおり、これらの内容については要求された段階であり、今後、財政課を中心として精査していくことになる。そのため、不明な点やご意見などは、事業内容等が確定した頃に改めてお伺いしたい。

●渡辺市長

次に（3）「今後の教育行政のあり方」について、まず私からお話させていただく。

先ほど当面の課題について説明があったとおり、新型コロナウイルスに関する対応については、全ての市町村で文部科学省が示した基準に沿って取り組んでいるが、教育現場は混乱していると感じている。

そのような中、特に若年層の自殺者数の増加が社会問題となっているが、国の反応は疎いのではないかと感じている。自殺の原因のひとつとして「いじめ」が挙げられる中、現在のところ本市において深刻な事案はないものの、万が一の事態ににならないよう、関係機関などと情報共有に努めていきたい。

解剖学者の養老孟司先生によると、都市化や情報化が進む現代は「脳の世界」であるが、子どもたちは自然や感覚による「体の世界」に生きているそうである。ICT端末の活用などにより直接対面しなくなることはよいことか。都市も過疎地も条件が同じであるなら士別だからこそやれることを強化していく。チャンスが増えた一方で懸念も増えている。コロナに関する情報は全て正しいのか。大人が正しいものを見ているかわからなければ、子どもはなおさらであり、大人としての責任もある。

義務教育年代の体制強化が必要であり、学校教育、社会教育、社会体育は、これまでのことを着々と実施していく必要がある。コロナ禍で黙食やマスクの着用など、子どもたちはストレスにさらされている。大人が目線だけではない考え方を共有していきたい。

高校の魅力化として通学や下宿の助成などを充実させてきた。名寄市には大学があるが、本市では高校が最終学校である。このまま推移すると士別翔雲高校は一間口減少する可能性があり、市として大きなデメリットとなることから、士別東高校ともども市内の高校を守っていきたい。

限られた財源の中、皆さんからもアイデアをいただき、事業を進めていきたい。

●馬場職務代理者

他の自治体の教育委員などと意見交換する際に、本市ならではの学校でのスポーツ能力向上事業なども含めたスポーツ関連事業について話題にすると、とても羨ましがられることがある。小さなまちでも日本代表の選手と間近にふれあうことができる特徴的な事業を大切にしてもらいたい。合宿受入れについても経費の問題など事情はあると思うが、選手たちが走りやすい環境を提供し、士別に愛着を持ってもらいたいと思う。テレビなどで知っている選手が走っていると自然と応援の気持ちが芽生える。オリンピックデーランなどで、市民とアスリートのふれあいもあり、良い関係性が失われないよう継続してもらいたい。

社会教育に関しては、子どもや高齢者だけでなく、青年層を対象とした「まちづくり塾」のような取組が大事な活動であると感じている。

●渡辺市長

道内のプロスポーツ団体「レバンガ北海道」、「北海道コンサドーレ札幌」と連携協定を締結したところである。スポーツ業界における危機感もある中、子どもたちに対して何かできることがあれば協力したいと言っている。また、本市を拠点としているチームとして「士別サムライブレイズ」があり、選手たちには「子どもたちのヒーローになってもらいたい」との話をしたところである。

「まちづくり塾」に関しては、私が議員時代から実施されてきているが、今年度から仕組みを変更し、中峰教育長に塾長を務めてもらうこととした。卒塾生から話を聞くと「まちづくり塾に関わって良かった」との声があり、引き続き期待している。

●多田委員

中学生の人数が減り、部活動の種目も少なくなった。拠点校方式による部活動なども行われているが、学校間の移動が課題だと感じている。保護者が送り迎えをしている状況からも市のサポートをお願いしたい。また、部活動の質を向上させるためには指導員の配置が必要となる。スポーツ選手が目標となるような部活動づくりを考えていかなければと思う。

●渡辺市長

教職員の働き方改革を進めるうえでも、保護者にも一定の負担を求めることは理解できる。部活動の地域移行は地域間の格差が広がる可能性があり、大きな問題である。今後、移行に向けた協議を行っていくことになるが、部活動の位置づけについて考える必要がある。

●中峰教育長

部活動に関して、この先、指導要領が見直される見込みでもある。北海道教育大学岩見沢校キャンパス長の山本理人教授は、部活動に限らず、青少年を中心とした地域のスポーツ活動として幅広い視点で見なければならないと述べられている。顧問である教員やそれ以外の指導者がいる場合でも、やり方を誤ると指導する機会が減ることでモチベーションが下がる可能性さえもある。拠点校部活動などの練習時の移動に関しては、公共交通の実証試行的として行われている「習い事タクシー」が利用できるが、予算に限りがあり、いつまで実施できるかは不明。サンライズホール事業の「学校と子どもと芝居」に温根別から参加した子どもは、練習のためにサンライズホール通うことが大変だったと話していた。子ども議会では公民館の職員が送迎するなどしており、何らかの手段を検討する必要がある。

●加藤委員

自死の話題について、土別では起きないことを祈っている。子どもたちも電子ツールを所有するようになり、保護者や学校もネットリテラシーについて学ばなければならないと感じている。情報がいくらでも手に入るようになったが、知識があっても経験が不足していると知恵にはならない。電子ツールは、ただの道具であり、使い方を教えなければならない。

●中峰教育長

市P連の研究大会でも、「インターネットのトラブルと依存、予防とその対策」について、北海道消費者協会の道高総務調整部長から講演いただくなど、問題意識の広がりも見られるところであり、家庭教育のなかでも重点的な取組が肝要と考えている。

●武山課長

子どもに指導するため、親が勉強しなければならないと感じている。

●加藤委員

授業によってICT端末の操作には慣れたかもしれないが、きちんとした使い方を含めて使いこなせているとは言えない。

●渡辺市長

今後も引き続き教育行政の推進に努めていく考えである。今後ともよろしく願います。以上で総合教育会議を終了する。

【 会 議 終 了 】